



美山中学校だより



子どもたちの活気を地域でも

新緑がまぶしく、作物や花の成長盛んな好季節となりました。水田はほぼ一段落したようすが、梅雨前の好天に野外で忙しくされている様子が見られます。皆様には、ご健勝のことと存じます。日頃は、本校の教育活動に、格別のご理解とご支援をいただき誠にありがとうございます。



さて、新年度になって約2ヶ月が経過しました。コロナ禍が終息したわけではありませんが、連休明けからは、感染症法上の位置づけが変更され、本校の教育活動についても、従来の日常を取り戻しつつあります。給食もランチルームに3学年がそろいました。また、修学旅行も東京方面で実施することができました。まだまだ、楽観視することはできませんが、コロナ禍で定着した手洗いや消毒などの衛生管理意識や各自の健康管理の実践は継続してほし



いと思います。そして全校生徒が元気に活動し、活躍の様子をお伝えできるようにしていきたいと思います。中間テストを終えた子どもたちは、このあと実施の南丹・船井陸上大会、1・2年生の校外学習等に取り組んでいきます。それぞれの地域においても、戻りつつある日常の中で、中学生との関わりや活躍の場面を作っていただけたら幸いです。

校長 明田忠弘

本年度生徒会スローガン

先日生徒総会で、会長から本年度のスローガンが発表されました。本年度、総務局を校として全校で新たな電灯を作り出したいという思いが込められているようです。冊子に記載された内容を紹介します。

創始



美山中学校をより良くしていくためには、他学年との関わりを増やして、一人一人が新しい取組をしていくことが大切だと考えました。

この「創始」という文字には、新しく始めるという意味があります。挑戦することを恐れず、新しいことにどんどん取り組んでいきましょう。

南丹・船井中学校総体上位結果

○バレーボールの部 第3位

○剣道の部 男子団体 優勝
混合個人 第3位 外田 健一(3年)
湯浅 向陽(3年)

○卓球の部 女子団体 第3位



連休後の作文紹介

本校では、開校当初より折に触れて作文を書いて、年度末に「若草」というタイトルで文集を作成しています。今回は、連休中の思い出として全校生徒が作文を書きました。お手伝いや帰省・旅行など様々な内容でまとめています。

「原爆ドーム」

3年 古北 恵里那

5月6日と7日の二日間、私は広島県へ行きました。2日目は、母と妹と3人で原爆ドームに行きました。

近くにある広島平和記念資料館の中を見まわりました。そこには原子爆弾によって溶けた鉄や絵、写真、着ていた服などのもの。他にも、被害を受けた人の言葉などたくさんの資料がありました。私はそれを見まわり、自分が思っていたよりも原子爆弾はもっと怖いおそろしいものだということをとて実感しました。資料館を見てまわって私は体にやけどをおった人についての展示が印象に残りました。



さらに印象に残ったのは放射線による被害です。放射線を浴びて、20年後に体調をくずして亡くなった人がいると知りました。放射線をあびてもすぐに体に影響してこないというのがとても怖くておそろしいなと思いました。戦争が終わっても、その後たくさんの人が放射線などの影響で亡くなったということがよくわかる資料がたくさんありました。

今回、原爆ドームへ行って、原子爆弾による被害などを詳しく知り、戦争や原子爆弾がどれだけ怖く、やってはいけないのかということが改めてよくわかりました。そして、平和を訴えることの大切さについて考えさせられました。

私が原爆ドームへ行った時は雨でしたが、観光客はたくさんいました。私は、そこで日本の人よりも外国の人の方が多いということに気がつき、驚きました。日本の人もいましたが、資料を見たり、説明の書いてある看板を見たりするのも、外国の人の方がしっかり見ていると私は思いました。私は今回知ったことがたくさんありました。私のようにあまり原爆について詳しくない日本の人はたくさんいるはずですが、もっと日本の人が原爆の事について知るべきで、興味を示すべきだと私はとても感じました。学校などで、一度は行くべきだと私は思いました。



私はもっと原爆について知りたいと思ったし、二度と広島や長崎のようになってほしくないと思いました。